

yamada@tku.ac.jp

2011年度
国分寺市市民大学講座
資料

山田 晴通(東京経済大学)

yamada@tku.ac.jp

本報告の概要

- 東日本大震災の被災地における地域紙、その他の小さな「地域メディア」
- 「地域メディア」の多様な姿と立地特性
- メディアの先にいる「市民」の姿

被災地の「地域メディア」

- 伝統的に地域紙が根付いた地域
- コミュニティFM(震災後設置のものも)
- タウン誌、その他

→東京とは大きく異なる状況

「地域メディア」の立地特性

- 「地域メディア」の多様な形態
- 立地に大きな偏り

→地域性に応じてメディアが成立する

→地方と東京(郊外)では大違い

	送り手	受け手	メッセージ	事例 (▲は、実例を想定しにくい形態)
(1)	X	X	X	地域内で完結する典型的な地域メディア
(2)	X	X	Y	本国のニュースを伝える移民新聞
(3)	X	X	O	マス・メディアの機能を担う地域紙 (戦前/離島)
(4)	X	Y	X	特定の他地域に向けた観光PR
(5)	X	Y	Y	▲ (本文参照)
(6)	X	Y	O	▲ (本文参照)
(7)	X	O	X	地域からの情報発信、地域のPR
(8)	X	O	Y	▲ (本文参照)
(9)	X	O	O	地域からの普遍的な情報発信
(10)	O	X	X	中央で作られた地域別の情報サービス
(11)	O	X	Y	▲
(12)	O	X	O	難視聴対策、(14)の補助手段
(13)	O	O	X	特定の地域を取り上げるマス・メディア
(14)	O	O	O	典型的なマス・メディア

「地域メディア」の立地特性

- 「地域メディア」の多様な形態
- 立地に大きな偏り

→国分寺の地域メディアは？

→在来型の地域メディアは成立しない

→新たな形の模索が必要

...必ずしも「新しいテクノロジー」ではない

メディアの先にいる「市民」の姿

- メディアの活性化は手段→目的ではない

地域メディアがないから作ろう、という
発想は、実は本末転倒

メディアの先にいる「市民」の姿

- メディアの活性化は手段→目的ではない
- 市民の地域への情報需要、発信の意欲

「知りたいこと、知らせたいことがない」
のだろうか？

メディアの先にいる「市民」の姿

- メディアの活性化は手段→目的ではない
- 市民の地域への情報需要、発信の意欲
- 本質的に「強制」にはなじまない

強制されたコミュニティ活動の硬直化

メディアの先にいる「市民」の姿

- コミュニティ自体の流動化、不安定化
- 「わがままな隣人」の存在を前提とし、それさえも包摂するコミュニティの構想が必要
- 従来型の組織化の努力は継続されるべき
- しかし、その先の「市民」をコミュニティにつなぐ工夫が必要 → メディアは役立てるのか？

一生懸命、地域のことを考えて生きる人々
とは異なる...

他人との接触が苦手な、
あいまいに、ゆるやかに、
いつでも他所へ行けるように、
そこにいるだけの人々を、

どう地域に位置づけて組み込めるのか？

メディアの役割がそこにあるのではないか
ただし、それは砂漠に水を撒くようなことかもしれない

本報告の概要

- 東日本大震災の被災地における地域紙、その他の小さな「地域メディア」
- 「地域メディア」の多様な姿と立地特性
- メディアの先にいる「市民」の姿

yamada@tku.ac.jp